

98.5%

心大血管術後の心臓リハビリテーション実施率

測定値の定義・計算方法

Process

分子： 分母のうち、入院期間中に心大血管リハビリテーションを実施した患者数

分母： 心大血管手術(開心術/大血管術)を施行した患者数

活動のきっかけ

心臓血管術後のリハビリテーションは様々な側面で有効性が証明され、欧米のガイドラインでも強く推奨されている。術後の過剰な安静に伴う、各種合併症の発症を予防する観点からも、術後患者に対してリハビリテーションを提供する体制の構築が必要であり、他病院とのベンチマークを行い、実施体制の構築に向けて取り組む必要がある。

改善活動部門

- リハビリテーション部

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
<ul style="list-style-type: none">心大血管手術患者135件に対し、心臓リハビリテーション実施率100%を達成し、目標値95%を上回った。前年度の98.1%から改善し、年間を通して各月100%を維持することができた。診療科カンファレンスや早期離床リハビリテーションチームによるラウンド等を通して、対象患者を確実にリハビリテーション介入につなげる体制が定着している。	<ul style="list-style-type: none">心臓リハビリテーション実施率は100%を達成した一方、施設基準等の課題から、心大血管リハビリテーションの365日提供体制の構築には至らなかった。休日を含めた継続的なリハビリテーション提供体制の整備が課題であり、関係診療科と連携しながら実施体制について検討を継続する必要がある。今後は実施率100%を維持するとともに、曜日に左右されない早期介入・継続介入が可能な体制の構築を目指す。